



片葉の葦

別院の近くには「片葉の葦」が群生しています。「片葉の葦」とは、親鸞聖人が関東へ旅立たれる際、別れを惜しんだ葦が、聖人一行に手を合わせるように葉をそろえたという伝承があり、「越後親鸞七不思議」の一つに数えられています。実際には、風向きなどの気象条件で葉が片側へなびく現象のようですが、親鸞聖人を敬う人々の心が、こうした伝説を生んだと考えられています。

別院から車で5分程のところには「居多ヶ浜」があります。ここは、ご流罪となった親鸞聖人が最初に上陸されたと伝わる場所です。



居多ヶ浜。看板の向こうに日本海が広がる

す。親鸞聖人は「海」に思いを寄せられ、「本願海」「生死海」といった言葉で阿弥陀如来の本願の広さ、私たちの苦悩の深さを表現されています。

この日最後に訪れたのは、恵信尼さまの廟所です。恵信尼さまのお手紙に「生きている間に卒塔婆をそばを建ててみたいと思い、石の五重の塔を七尺の高さで造るように頼んだら、職人が引き受けてくれましたので、できあがってくればすぐに建てようと思っていました」(『現代語版聖典』)とあります。昭和32年、現在の上越市板倉区で発見された石塔が、恵信

尼さまが願われた「寿塔」と認定され、その後「ごぶしの里」として整備されました。

現在の国府の風景に、当時を直接しのぶ面影は少ないかもしれませんが。しかし、ご流罪という厳しい環境の中、後の布教伝道の土台をこの地で深められ、親鸞聖人とそのご家族が確かにこの地で過ごされたのだと思うと、とても感慨深い旅となりました。



恵信尼さま廟所
写真の奥に見えるのが「寿塔」。左横は南無阿弥陀仏のお名号。



宿泊したホテルにはお仏壇が設置されています。皆様お朝事をお勤めました。

ご報告

5月18日に開催された「明法寺門徒総代会」において、次の方が本山届出の門徒総代に選出されました。

総代長

大本満男さん(再任)

副総代

竹本正富美さん(再任)

武田邦夫さん(新任)

任期 令和7年6月15日から

4年間

よろしくお願い申し上げます。